

学園だより

社会福祉法人 至誠学園立川 児童事業本部

至誠学園 至誠大地の家 至誠大空の家
ワークセンターまことくらぶ

令和元年12月1日

〒190-0022 東京都立川市錦町 6-26-15

TEL 042-524-2601 FAX 042-524-2367

<http://shiseigakuen.org/>

Email: info@shiseigakuen.org

発行 児童事業本部 広報委員会

野球部 優勝おめでとう！



至誠学園・至誠大地の家の野球部は4年前に江戸っ子杯野球大会で優勝しましたが、それ以降は中心選手が進級のために抜け、優勝からは遠ざかっていました。

中学3年生まで出場できる大会ですが、今年は小学4年生が中心のチームで、正直優勝は難しいと思っていました。しかし子どもたちは「絶対に優勝したい」と酷暑の中、汗を流して、そして瞳を輝かせて毎日練習を行っていました。

大会では小学4年生の投手、小学4年生の捕手を中心となり数人の中学生がそれを盛り上げる形で初戦、2回戦と順調に勝ち進み、1日で3試合行う過酷な日程でしたが決勝戦でも相手チームに点を与えることなく、当初の予想を覆して見事に優勝することが出来ました。これには本当に驚かされ、改めて子どもたちの可能性を感じる事ができました。そしてこの経験は子どもたちにとって非常に大きなものになったと思います。

本当によく頑張りました。是非来年も優勝を目指して一緒に頑張りましょう。

石田芳朗 常務理事 児童事業本部長より

このたび法人常務理事、児童事業本部長を拝命いたしました。昭和63年の春に至誠学園の門をたたいてから31年、まさかこのような大役を担うことになろうとは当時は夢にも考えていませんでした。児童指導員としての理想がありましたから、信じる道を歩んできたつもりです。元来、自分は人の前に立って歩くようなタイプの人間ではなく、忘れ物や落し物を拾いながらも、時には太鼓や鈴を打ち鳴らしながら後ろに行くことでパフォーマンスを発揮するタイプであることは、自身が一番理解しているつもりです。そんな自分にバトンがまわって来てしまったのですから、それはもう一大事です。何よりも、周りがさぞかし大変だろうと、とても心配しております。

もちろん、私自身も最大限の努力は惜しまないつもりですが、もとより、一人でも為していける職務とは考えておりません。組織の力を存分に活かしながら、課題解決に取り組んでいく所存です。

生活する子どもたちや毎朝通ってくる利用者の皆さんの幸せのため、そして、そこで働く職員が笑顔で力を発揮してやりがいを感じ、深く幸せを感じられるように、さらに、この地域が優しさに溢れる町になるように、していきたい。そのために、法人は、施設は、いかにあるべきなのか、考え行動していきたいと思えます。

まことの心を、当たり前のことのように具現化できる人に一日も早くなれますよう、歩んでまいります。どうぞ、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

電話番号 変更の お知らせ

児童事業本部と各施設の電話番号が変更になりました。新しい番号は以下の通りです。お手数おかけしますが、お手元の番号を訂正いただきますようお願いいたします。

至誠学園	042-524-2608
至誠大地の家	042-540-0088
至誠大空の家	042-521-0086
ワークセンターまことくらぶ	042-521-3988
児童事業本部事務局	042-524-2601

児童事業本部役職員の人事異動についてご報告

2019年度4月1日異動

児童事業本部 副本部長・事務局長 高橋誠一郎（前至誠大地の家施設長）
 至誠大地の家 施設長 石田昌久（前至誠学園副施設長）
 至誠学園 副施設長 山田俊一（前グループホーム主任）
 至誠こどもセンター 所長 島田美喜（至誠大地の家保健師兼任）
 障害福祉総合事業準備室 室長 石橋正央（前児童事業本部長補佐）
 障害福祉総合事業準備室 副室長 小山廣重（前至誠ホームオンニ準備室）
 至誠児童福祉研究所 所長 高橋久雄（常務理事・児童事業本部長兼任～6月15日）

2019年度6月15日異動

常務理事・児童事業本部長 石田芳朗（至誠学園施設長兼任）
 理事（障害福祉事業担当） 高橋久雄（至誠児童福祉研究所所長兼任）

本部長交代のご挨拶

盛夏の候皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。このたび6月15日の理事会において常務理事・児童事業本部長を退任いたしました。旧職在任中は格別のご厚情を賜り厚くお礼申し上げます。今後は、理事として法人の新らたな取組みである障害福祉総合化事業の立ち上げと至誠児童福祉研究所所長として引き続き微力を尽くしたいと存じます。後任には至誠学園施設長石田芳朗が就任いたします。私同様一層のご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

高橋久雄

副本部長・事務局長のご挨拶

4月から児童事業本部副本部長と事務局長を拝命いたしました。よろしくごお願いいたします。社会的養育推進計画や特別区の児童相談所設置などの児童養護施設の制度改革、障害部門の事業拡大、至誠こどもセンターによる地域子育て部門の創設、それらを担い次世代も含めた人材の確保と育成、といった取り組み課題を児童事業本部では多く抱えております。

児童養護施設は社会的養育推進計画や特別区の児童相談所設置など、来年から新しい制度が始まり、大きな転換期を迎えます。本部長をトップに、児童事業本部の施設・事業が統一感を持って取り組めるよう、努力していく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

高橋誠一郎

至誠大地の家施設長のご挨拶

この4月より至誠学園の副施設長から異動となり、至誠大地の家に施設長として就任いたしました石田昌久です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成元年に至誠学園に入職してから30年、これまで人生の半分以上を学園で過ごしてきました。今まで出会ったたくさん子どもたちや職員、ご支援いただいた方々との思い出のすべてが私の宝物・財産となっています。これからは至誠大地の家の施設長として職務を全うしながら、子どもたちや職員とともに新たな思い出を積み重ねていければと思っております。

とは言いましても施設長としてはまだまだ半人前でありますので、皆様方のご指導を承りたく存じます。あわせて至誠大地の家を含め至誠学園立川児童事業本部への引き続きのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

石田昌久

平成30年度 決算報告

(2019年5月理事会にて認定 / 単位：千円)										
	本部会計 (児童事業本部)	至誠学園	ショートステイ (立川市日野市)	至誠 大地の家	至誠 大空の家	ワーク センター まことくらぶ	ショートステイ あずま	ショートステイ アクリソブラ	合計	
収入	国及び都からの補助金	0	460,015	16,371	345,716	311,944	40,493	0	8,176	1,182,712
	寄付金収入	16,327	3,022	0	100	2,676	40	0	0	22,164
	雑収入等その他の収入	4,921	9,201	775	9,183	5,169	70	1	110	29,427
	積立金取崩収入	4,320	20,000	0	0	0	0	0	0	24,320
	繰入金収入	13,320	0	0	0	0	0	0	0	13,320
	借入金収入	0	0	0	0	0	5,000	0	0	5,000
	計	38,888	492,238	17,146	354,999	319,789	45,603	1	8,286	1,276,943
支出	経常的支出	20,256	418,347	17,146	312,222	274,791	49,632	1	5,298	1,097,689
	施設設備等整備支出	2,131	28,372	0	1,511	5,033	0	0	0	37,045
	借入金返済支出	0	0	0	6,250	0	0	0	0	6,250
	繰入金支出	13,320	4,400	0	4,400	4,400	120	0	2,000	28,640
	貸付金支出	5,000								
	積立金支出	0	33,264	0	22,740	20,203	504	0	0	76,710
	その他支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	40,707	484,383	17,146	347,123	304,427	50,256	1	7,298	1,246,334
当期繰越金	-1,819	7,855	0	7,876	15,362	-4,653	0	988	30,609	

至誠こどもセンターの設置

2018年度に法人の中長期計画として掲げられている、①児童の健全育成事業への取り組み—児童養護施設の専門性を地域に生かす、②地域家庭支援事業の拠点づくり、に関する具体的方策の検討を重ね、その結果、2019年度より「至誠こどもセンター」を設置し、児童事業本部の地域支援・地域貢献の拠点として業務を開始することとなりました。これまで、ショートステイや一時預かり、ボーイスカウト、サイエンスクラブなど、地域に対する事業を行ってきましたが、今後はこれらの事業が連携し、充実をはかっていく予定です。

今年度はまず、家庭訪問型子育て支援である「ホームスタート」を新規事業として開始します。ホームスタートとは、研修を修了した子育て経験者が未就学児のいる家庭を訪問し、親子と一緒に会話や遊び、家事などを協働して過ごしながら親子を支援する活動です。さまざまな理由で孤立感を高めている人にこの活動を知っていただき、利用していただくことで、前向きに子育てができるような応援をしたいと思えます。

至誠障害福祉総合センター建設

2020年度開設を目標として事業本部内に「障害福祉総合事業準備室」を設置しました。今まで検討してきた計画の具体化に向け東京都への施設整備費補助申請のための計画書提出と協議を重ね、12月に補助金の内示をいただきました。いよいよ年明けには入札による業者決定、そして、3月には建設を始める運びとなりました。計画の概要は下記のとおりです。

- 設置場所 至誠ホームケアプラザ跡地
- 施設概要 3階建て GH 併設多機能型事業所
- 事業内容 3階部分：グループホーム【定員10名
(5名×2ユニット)】
2階部分：障害者就労継続支援B型事業所【定員20名】と生活介護事業所【定員20名】の多機能型事業所
1階部分：事務所・多目的ホール
- 開設予定 2021年2月



2019年の思い出

ガーデンパーティ



4月28日(日)
今年も子どもたちの健やかな成長を祝うガーデンパーティを開催しました。
青空の下、園庭いっぱいに繰り広げられたゲームや工作コーナー、模擬店でのお食事、アトラクションなど子どもも大人も笑顔がいっぱいの日でした。

チャリティマーケット



7月6日(土)
今年も多く地域の皆様に来場をいただき、ボランティアの方々のご支援も得て、にぎやかに開催することができました。
皆様のご協力により収益は、ご寄付金も含めて853,491円でした。来春自立する子どもたちへの支度金と今年度から工事が始まる障害福祉施設の建設費の一部に充てさせていただきます。

ボーイスカウト活動



クリーン多摩川

6月2日(日)、9月29日(日)
ボーイスカウトが市民の方々と多摩川の清掃奉仕をしました。立川第4団のスカウトたちが始めたこの活動は、市民にひろがりこれまで50年以上続いています。

赤い羽根共同募金

10月5日(土)

立川駅の北口と南口周辺でボーイスカウト立川第4団のスカウトが街頭募金をしました。

0歳からの親子コンサート

11月7日(木) りするホール(立川市民会館)

第16回児童虐待防止推進月間事業として広く市民に呼びかけ131人が参加しました。

シンガーソングライターの玉城ちはるさんと、ピアニストの高橋教予さんのお二人による、「子どもは泣いても歩き回ってもいい」歌とお話のコンサートでした。

親子にとって、とてもリラックスしたよい時間を過ごせたと大変好評でした。



夏休み

勝浦臨海行事

新たに至誠大地の家も加わり「勝浦の家」を拠点に、ホームごとに2泊3日の臨海行事を行いました。「勝浦の家」をご寄贈くださった徳井様より、今年も差し入れしてくださった新鮮な野菜や魚を美味しくいただき、また、今回は御宿の花火大会も一緒することが出来ました。海水浴、魚釣り、花火、綺麗な星空を眺める、キョンに遭遇するなど、普段味わうことの出来ない野外体験を通して、子どもも大人もリフレッシュするとともに、毎年楽しい思い出を作らせていただいております。



大地の家合同ホームキャンプ

期日:8月26日～8月28日の2泊3日で至誠大地の家のみかんHOUSEとりんごHOUSEの子どもたち、職員とで合同ホームキャンプを行いました。キャンプ地は埼玉県秩父郡長瀬町周辺で、清流の長瀬川でラフティングやライン下りをして楽しみました。



ボーイスカウトキャンプ

学園の子どもたちが参加するボーイスカウト立川第四団の夏季キャンプが行われました。カブスカウト隊とボーイスカウト隊とが合同で、8月5日から8日までの3泊4日、山梨県山中湖林間寮にて行いました。

学園からはカブ隊のスカウト、指導者、保護者が参加し、山中湖から高指山、明神山を回るハイキングや、本栖湖でペットボトルと竹を使用した筏作りをするなど、野外活動を楽しみました。



運動会

11月2日に10月の台風の影響で延期になっていた「しせいのご運動会」を園庭で行いました。

モンテッソーリ立川こどもの家のこどもたち、先生たちと、至誠学園、大地の家、大空の家の子どもたち、職員、保護者の皆さんが参加しました。

かけっこ、玉入れ、ダンス、障害物競走、大玉転がし…と精一杯頑張る姿、清々しい表情がとても印象的でした。



令和に寄せて

新時代に向け、厚生労働省は社会的養育に関して、2017年に新ビジョンとしてまとめた。里親養育を優先する委託率を大幅に拡充することを打ち出した。

児童養護施設は児童養護機能転換に向け、施設の小規模化、グループケア等をめざし、職員配置を手厚くする、施設は小規模化かつ地域分散化を進め、高機能化に向けてケアニーズの高い子どもや地域の子どもの福祉の拠点的役割などをめざすことが示されている。

児童・家庭の相談を行う児童家庭支援センターの充実、アウトリーチ支援を増やすことなど、施設は多様化、複合化をさらにめざし、専門機能を強化していく。施設整備については定員10人以上のものは整備計画を採択しない、補助金を出さ

ない、こうした動きのなか至誠学園は早くから施設の処遇の社会化、養育家庭（里親）、ショートステイ、トワイライトステイ、施設児童の小集団化（ユニット）、地域小規模施設、グループホームを試行し、政策提案など、歴史の流れに応じて実践してきた。

最近の取り組みでは、東京都の専門機能強化型施設の試行は、多く東京都内施設が取り入れている。

令和の新時代に向け、これからも民間の独自性と実践力を活かした施設改革を推進していくことを後進に期待する。

至誠学園名誉学園長 高橋利一

至誠大空の家

今年度で7年目を迎えました。2017年に東京都のモデル事業「東京都サテライト型児童養護施設事業」の指定を受け、センター事務所と地域小規模児童養護施設「カルガモハイム」を国分寺市に開設しました。2018年8月に小規模グループケア地域型ホームとして「キビタキハイム」を同市に開設し、現在、小学生から高校生の女子12名が生活しております。日野市万願寺の本園は小規模グループケア4ホーム、男女30名定員で始めましたが、現在、4ホーム24名（1ホーム：6名）となり、施設の定員は36名となりました。高齢児の自立支援に力を入れた施設のコンセプトから、中学・高校生が8割を占めてきましたが、どの子ども心身ともに厳しい環境の中で育ってきており、将来への夢や希望を持てるようになるには相応に時間が必要だと実感しています。まずは衣食住の心配をせず安心して生活できること、困った時は大人に相談できることを優先に支援をしています。現在、進学し頑張っている青年は7名、来年の進学をめざしている高校生は5名。それぞれの夢や進路を見つけ歩み始めています。これからもご支援宜しくお願い致します。

至誠大空の家 施設長 国分美希



ワークセンターまことくらぶ

4月より新たに3名の新入会員を迎え、会員22名、スタッフ・ボランティア13名の総数35名で新年度の体制を開始しています。3名の新入会員は全員が学校を卒業したばかりの新社会人でもあり、毎日緊張しながらも一生懸命に仕事に取り組むその姿に、自分自身の姿を重ね襟を正す毎日です。今回ご縁を頂いた新入会員の皆さん、そのご家族、関係機関の皆さんに「まことくらぶを選んで良かったな」「まことくらぶって楽しいな」と思ってもらえるよう事業運営をして参ります。

1997年に至誠学園の法外活動（卒園生のアフターケア）の一環として事業を開始してから一昨年20年の節目を迎え、至誠障害福祉総合センターという新たな事業へ取り組む事が出来る機会をこの上ない喜びと感じながら、会員さん、ご家族、関係機関、そして地域の皆様に貢献し、法人へと還元できる様計画達成に向け邁進してまいります。



(新施設イメージ図)

トピックス

錦六会（町会）との協働事業『夏休み宿題おたすけ大作戦！』

夏休みの8月6・7日（1泊2日）に実施した学園と町内会の子ども会主催の「夏休み宿題おたすけ大作戦」は、今年も大盛況に終わりました。

この活動は、過去に学園が、児童館「トムソーヤの森」の活動として学園と地域子どもを対象に行っていた「夏休み学童クラブ」の再開を願う地域の方々の声にこたえて錦六会（町会）が主催し、学園が協働するという形で3年前にスタートしました。積極的に地域の大学生等にも呼びかけボランティア発掘の機会にもなっています。

参加した子どもたちからは、「楽しかった!」、「また来年もやりたい!」、「大学生に宿題を教えてもらえて良かった!」など感想が寄せられ、大学生ボランティアもリポートしており繋がりや活動の広がりを見せています。



イルミネーション

今年も学園（立川）の庭に、飯沼電気㈱のご協力で美しいイルミネーションが点灯しました。12月19日寒空の下、朝から夕刻まで社員の皆さんが設置工事をしてくださいました。



2019カンボジア・スタディー・ツアー

8月16日～22日（6泊7日）職員3名が引率し、至誠学園から女子中学生2名、大空の家から女子高校生2名が参加しました。

訪問先は、児童養護施設HOPE、日本のNPO法人ASAPが支援している小学校、地雷博物館、日本人の元高校美術教師が始めた美術教室「小さな美術スクール」、日本人がオーナーを務めカンボジア人のキャンディ職人を養成している土産物店「キャンディアンコール」、アンコールワット観光などです。



子どもたちは、移動の時間も多く疲れた様子もありましたが、新しいものを見るたびに目を輝かせ、現地の人に話しかけてみたり、トゥクトゥクに乗ったり、英語やクメール語を使って買い物を楽しんだり、とプログラムを満喫できた様子でした。



子どもたちの感想文には「村に住んでいる方たちは私たちにいつも笑顔で親切にしてくれて交流してとても楽しかったです。裕福ではないから幸せでない、そんなことはないのだなと改めて感じました。」「カンボジアはまだ貧困な地域もあるけれど懸命に生きている姿を見て、私ももっと強くなりたいなど思いました。」などあり、中でもカンボジアの子どもたちとの交流はとても印象に残ったようで、「もう一度HOPEに行きたい!」という意見がとても多かったのが印象的でした。

カンボジアの人たちはとても気さくで、子どもたちは非常に人懐こく言葉が通じない中でも、みんなで身体を使って遊んだりコミュニケーションを取ったりしながら、厳しい環境の中でも明るくゆったりと過ごしているカンボジアの人たちの魅力に気づくことができたのではと感じました。



後援会からのお知らせ

2019年度 至誠学園後援会ご協力のお願い

毎年、多くの方々から後援会費をご送金いただき、心より感謝を申し上げます。今後とも変わらぬご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

至誠学園後援会会長：佐々木信孝

1. 個人会員1口（年額2千円）以上
2. 団体会員1口（年額5千円）以上
3. 賛助会員1口（年額1万円）以上

ゆうちょ銀行

・郵便振替口座

口座番号 00140-2-356681

口座名 至誠学園後援会

・通常貯金

記号 10090 番号 14327531

銀行口座

三井住友信託銀行 立川支店（銀行名変更）

口座番号 普通 7902588

多摩信用金庫 錦町支店

口座番号 普通 0269785

口座名 至誠学園後援会

連絡先

至誠学園後援会事務局

立川市錦町6-26-15（至誠学園）TEL 042-524-2601

編集後記

学園だよりの編集をとおして多くの方々いろいろな形で支えられていることを実感します。自然環境も社会のしくみも将来に不安のある時代です。子どもたちの成長する力や人の生きる力を信頼し、未来に夢と希望をもって日々の暮らしを大切にしていきたいと思えます。(H)